

15 「患者と共に立てる看護計画」導入2年目の取り組み

病院看護部 看護記録検討委員会 山中かほり 鏡味麻里子 會田人美
小泉節子 田口華恵 富岡佳代 田村玉美

【はじめに】

平成18年、患者・家族が記載した「医療・看護者への希望、苦痛や不安に思っていることなど」（以下：患者の思いとする）を反映させた個別的な看護計画を立案・評価する「患者と共に立てる看護計画」を導入した。平成19年のアンケート調査では患者・家族80%、看護師33%が実施してよかったと評価した。そこで、平成20年度は看護師が実施してよかったという思いを高めることを目標に活動した。各フロアでは定期的な看護記録監査とその結果をフィードバックする取り組み、委員会では「患者と共に立てる看護計画」を進めやすいように看護記録ガイドラインの見直し作業を行った。今回、導入2年目の取り組みの結果を報告する。

【方法】

調査期間：平成20年11月5日～平成20年11月9日

1. 病棟勤務の看護師68名に無記名自記式質問紙調査票による調査。

①集計結果を平成19年の調査結果と比較した。

②自由記載欄を設け、その意見を検討した。

【結果】

有効回答率 看護師62名（91%）

1. 看護計画は「患者の思い」を反映して立案していますかは、「常にしている」「まあまあしている」を合わせると89%であった。

2. 看護計画は、「患者の思い」を反映して評価をしていますかは、「常にしている」「まあまあしている」を合わせると50%であった。

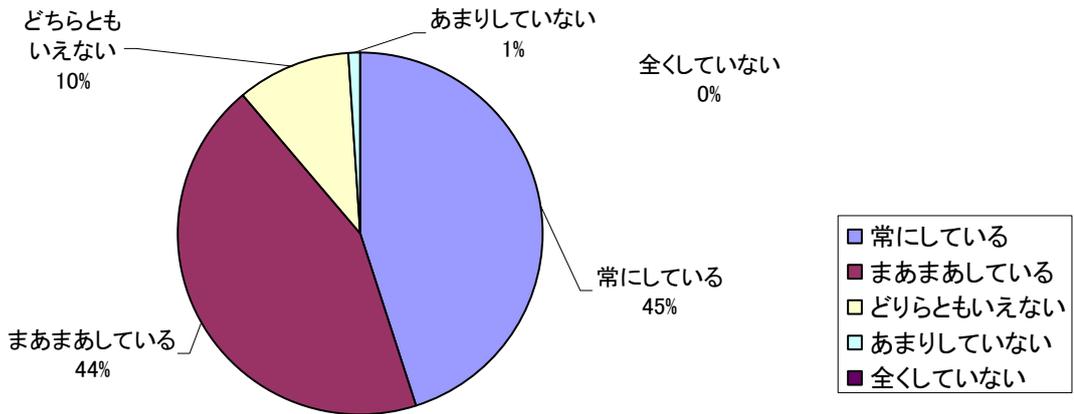
3. 「患者と共に立てる看護計画」を実施してよかったかは、「とてもよかった」「まあまあよかった」を合わせると48%であった。

4. 結果3の自由記載欄には、実施してよかった理由として「患者・家族を中心に共通理解が出来る」「患者の反応から信頼されていると実感できた」などがあつた。よくなかつた理由としては家族を含めた時間の調整が困難、具体的な運用方法を示していない、などがあつた。記録検討委員会への要望としては記録用紙や具体的な運用方法の検討、勉強会開催などがあつた。その他には経験を重ねていくことでの技術の向上への期待があつた。

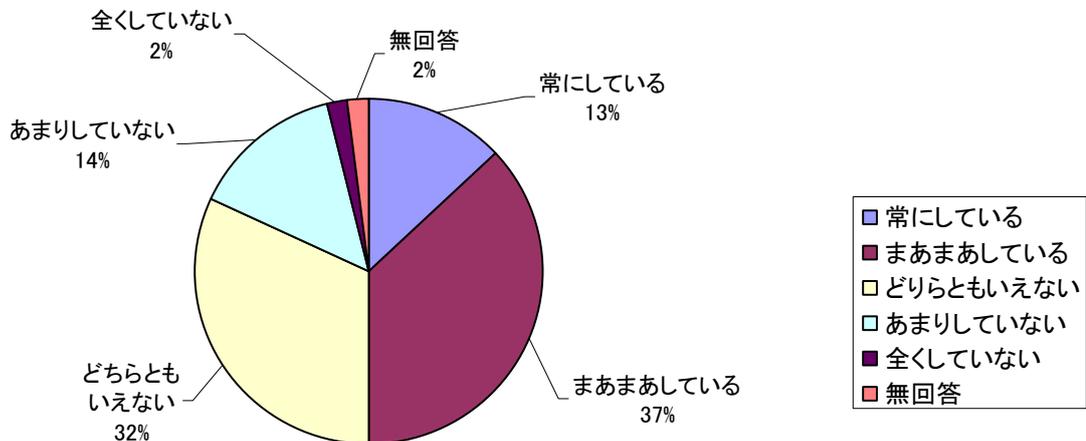
【考察】

「患者と共に立てる看護計画」を実施してよかったという看護師の割合は、平成19年に比べ15%増加したが48%である。実施してよかったという意見の増加は看護師の患者参加型看護計画に対する意識の高まりを表していると言えるが、看護師が患者の知る権利及び自己決定を尊重し、その権利を擁護する役割を担うことを考えると、実施してよくなかつた理由や要望を踏まえ、具体的な運用の方法について検討を行い改善する必要があると考える。

結果1. 看護計画は「医療・看護者への希望、苦痛や不安なこと、困っていることなど」を基に立案しているか



結果2. 看護計画は「医療・看護者への希望、苦痛や不安なこと、困っていることなど」を基に評価しているか



結果3. 「患者と共に立てる看護計画」を実施してよかったか

